

小学生1・2年生におすすめの本 2008年版

★社会・自然のふしぎ

タイトル(著者) 出版社(出版年)	請求記号	内 容
キャシーのぼうし (トルーディ・クリシャー) 評論社(2007.6)	E	キャシーは病気で髪の毛が全部抜けてしまった女の子。大好きなはずの帽子をかぶっても、なんだか好きになれません。するとお母さんがすてきな帽子を教えてくださいました。
くるくるくるみ (松岡達英) そうえん社(2007.9)	E	くるみパン、くるみ餅。そのまま食べてもおいしいくるみ。では、どうやってできるのでしょうか。くるみが、食べられるようになるまでがわかる絵本。
パンダの手には、かくされたひみつがあった! (山本省三) くもん出版(2007.12)	E	パンダは竹をどうやってつかんでいるのでしょうか。知っているようでよく知らないパンダの手のしくみ。そのしくみを発見するまでのお話。
ぼくがラーメンたべてるとき (長谷川義史) 教育画劇(2007.7)	E	その時、ぼくのとなりの家の子は何している?ぼくのとなりの国の子は何している?いろいろな人がいて、いろいろなことをしている。そのことをもっと考えてみよう。
みんなおなじでもみんなちがう (奥井一満) 福音館書店(2007.3)	E	たくさんのアサリやヒマワリのたねやウズラの卵の写真。そのひとつひとつをくらべてみよう。みんな「おなじ」なのに、その模様はちよつとずつ「ちがう」。
めだかのぼうけん (渡辺昌和) ポプラ社(2007.4)	E	メダカが田んぼにいるのはなぜ?どうやって田んぼにやってくるの?田んぼとそこに暮らすメダカの一年間を観察した写真絵本。

★どきどき、わくわく

タイトル(著者) 出版社(出版年)	請求記号	内 容
ウエズレーの国 (ポール・フライシュマン) あすなる書房(1999.6)	E	夏休みに自分だけの文明を作ることにしたウエズレーは、庭の畑で育てた見たこともない植物から、自分だけの食べ物、服などいろいろな物を作っていました。
エルマーのぼうけん (ルース・スタイルス・ガネット) 福音館書店(1980)	K933	エルマーは、どうぶつじまのどうぶつたちにつかまって、くさりでつながれたりゆうの子どもを助けるためにぼうけんの旅にでかけました。
お皿のボタン (たかどのほうこ) 偕成社(2007)	K913	お皿にのっている小さなボタンたちがそれぞれお皿にたどりつくまでどうしていたかを語ります。ボタンたちの小さな冒険。
おまじないつかい (なかがわちひろ) 理論社(2007)	K913	ゆららちゃんのおかあさんはおまじないつかい。ゆららちゃんもおまじないの修業をはじめましたが、なかなかうまくいきません。
かさぶたってどんなぶた (小池昌代) あかね書房(2007.9)	E	ゆかいなイラストといろいろな詩が出てくる絵本。「あいうえおにぎり」や「せみ」のページは、声に出して読んでみよう。
火曜日のごちそうはヒキガエル (ラッセル・E. エリクソン) 評論社(2008.2)	K933	ある冬の日、ヒキガエルのウォートンは、ミミズクにつかまってしまいました。ミミズクは自分の誕生日にウォートンを食べることにしたのですが・・・。
じごくのそうべえ (田島征彦) 童心社(1980)	E	そうべえさんが仲間の3人といっしょに地獄の鬼もビックリの知恵を働かせて、ちゃっかり地獄めぐりをするゆかいなお話。落語から作った絵本です。
スーホの白い馬 (大塚勇三) 福音館書店(1980)	E	王様にとられてしまった白馬は、スーホのもとへ逃げ帰ってきました。けれど白馬の傷はひどくて助けることができなかつたのです。馬頭琴という楽器にまつわるお話。
たんたのたんけん (中川李枝子) 学研(1978)	K913	たんたの誕生日にふしぎな地図が届きました。たんたは地図をもって探検にでかけました。するとどこからかひょうのこがあらわれました。

にんきものねがい (森絵都) 童心社 (1998. 10) K913	クラスのにんきものこまつくんにも悩みがありました。その悩みは「あだな」。「あだな」が欲しくてこまつくんは一生懸命考えます。
ばけたらふうせん (三木卓) 講談社 (1990. 6) K913	いろいろなものに化けていたら、もとの自分がかわからなくなってしまう「ふうせん」がお医者さんのところへやってきました。「ふうせん」とお医者さんのゆかいな話。
はちうえはぼくにまかせて (ジーン・ジオン) ペンギン社 (1982) E	夏休みにトミーは、近所の人々の植木を預かって世話をしあげることになりました。トミーは上手に世話をしたので、植木がどんどんふえて家の中は、まるでジャングルのように。
初雪のふる日 (安房直子) 偕成社 (2007. 12) E	秋の終わりに小さな女の子は石けりの輪がどこまでもどこまでも続いているのを見つけました。小さな女の子に起こった不思議な出来事。
はれときどきぶた (矢玉四郎) 岩崎書店 (1980. 9) K913	則安くんは、ある日でたらめな明日の日記を書きました。ところが、でたらめが本当になって「ぶた」がふってきました。則安くんのゆかいなお話。
ぶたのぶたじろうさん 1 みずうみへしゅっぱ つしました。(内田麟太郎) クレヨンハウス (2006. 4) K913	つい食べすぎてしまったぶたじろうさんは、でっぴりおなかをすっきりさせたくて、トランポリンでびよんびよんとんでみました。ぶたじろうさんのゆかいなお話3編。
よにもふしぎな本をたべるおとこのこのはなし (オリヴァー・ジェファーズ) ヴィレッジブックス (2007. 9) E	本を「読む」より「食べる」のが好きだった男の子の話。食べると頭がどんどん良くなっていきますが、とうとう食べすぎてしまい・・・。
ルリユールおじさん (いせひでこ) 理論社 (2006. 9) E	こわれた本を直してくれるというルリユールおじさん。ソフィーが会ったルリユールおじさんは、ごつごつしたその手で本を直していきます。

★家族、友だち、大切な人たち

タイトル (著者) 出版社 (出版年)	請求記号	内 容
あのときすきになったよ (薫くみこ) 教育画劇 (1998. 4) E	E	色白でちょっと気の強そうな女の子、あだなは、しっこさん。そんなきくちさんと仲良しになったのは、きっとあのとき・・・。
アンナの赤いオーバー (ハリエット・ジューフェルト) 評論社 (1990. 12) E	E	新しいアンナのオーバーを手に入れるためにお母さんとアンナは知恵をしばりました。いろいろなものと交換してもらい少しずつオーバーが出来上がっていきます。
おんぶはこりこり (アンソニー・ブラウン) 平凡社 (2005. 3) E	E	「ぶたさんのせわはもうたくさん」といっておかあさんが家を出ていってしまうお話。残されたお父さんと子どもたちは料理やそうじをしたことがないので大変です。
きいろいばけつ (もりやまみやこ) あかね書房 (1985. 4) K913	K913	置き忘れてあった黄色いバケツはだれのものだったのでしょ？自分のバケツが欲しかったきつねくんは「自分のばけつだったらなあ」と考えていました。
となりのせきのますだくん (武田美穂) ポプラ社 (1991. 11) E	E	隣の席のますだくんは元気でかいじゅうみたいな男の子。みほちゃんはずだくんにいつもビクビクしていましたが、だいじなえんぴつを折られて・・・。
ビロードのうさぎ (マージェリィ・W. ビアンコ) ブロンズ新社 (2007. 4) E	E	ある男の子に大切にされていた、ビロードでできたウサギのぬいぐるみのお話。ウサギは「子どものほんとうのともだち」になれたのでしょうか。
わすれられないおくりもの (スーザン・バーレイ) 評論社 (1986. 10) E	E	あなぐまさんは遠いところへ行ってしまいましたが、あなぐまさんが教えてくれたお話やおもちゃの作り方はあなぐまさんが残してくれた大切なおくりものでした。
わたしのおとうと (あまんきみこ) 学研 (2007. 7) K913	K913	いつもまねばかりする弟がちょっぴりイヤになっているおねえちゃん。ある日、階段からおこちたおねえちゃんが痛くて泣いていると弟も泣き出しました。